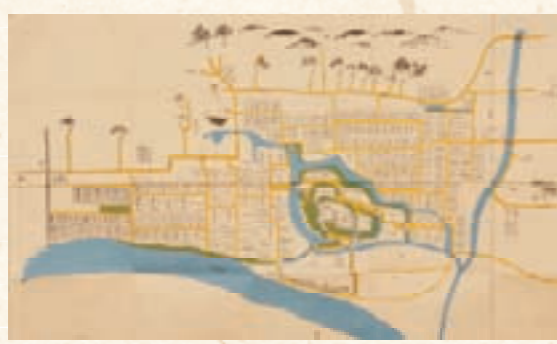


# 飯山城址と城下町の魅力を語る

飯山市文化財保護審議委員 長瀬 哲 さん

戦国期だけで江戸時代まで繋がないお城が多くある中で、飯山城は中世から近世に至る二つの時代にまたがるお城です。泉小次郎親衛が桜の下に泉が湧いているのを見つけて居を定めたと伝承される鎌倉時代、外様地方から頭角を現した豪族泉氏の拠点として機能した時代、上杉謙信が信濃支配の最前線とした川中島合戦時代、武田勝頼が飯山城を支配した4年間、そして近世大名の支配下として政治の中心になった江戸時代と続いてきました。

城造りは、武田の北上を阻止する上杉氏と、北上したい武田氏の双方の思惑が反映されています。上杉氏は小高い丘を活用して「後堅固の城」を築きました。東から南側に築かれていた土塁はまさに「絶壁」。体感するのではなく、当時は不明門であった本丸の東側の急な坂を降りて、下から眺めてみるのも良いと思います。



飯山城下町絵図 (元禄・宝永頃)

城址の中で特に見応えがあるのが本丸の石垣で、ほぼ当時のまま現存しています。「外柵形」という城内から進撃しやすい造りとなっており、北上を目指した武田

時代に造られたと私は見ています。二の丸から本丸を眺める一角は、最も往時をしのばせる場所です。魅力があります。

また、本丸からは飯山盆地を眺めてみて下さい。西は富倉峠、関田峠、東は千曲川、小菅神社、計見(木島平村)、南は綱切の渡し、壁田(替佐)ともに中野市と周辺を一望でき、いかに飯山城が有利な立地であったかを感じ取ることができます。



上杉と武田の思惑が交錯する飯山城

城下町の原型は上杉景勝の重臣岩井備中守信能公が築いたものです。岩井信能は大河ドラマ「天地人」の主人公直江兼継とも深い親交があり、会津移封の折にも六千石を頂いています。彼の功績を称える石碑が、復元された城門の前に建っています。

飯山城址を南に降りると鳥居があり、ここが大手門跡です。戦国期は北側がメインの入口でしたが、江戸期になると南側が正面となり、ここから福寿町と言われる武家町が並びました。元、上町、本町、肴町、愛宕町と続く通りは昔からの街道筋で、町人の町となっています。

## 城下町・飯山



「諸国居城図」信州飯山

が、城下の西側に寺が並んだのは江戸時代以降です。一般論として軍事上の防備のために寺町を配置したと言われますが、私は飯山城を中心とした都市景観上、そこに寺を並べた方が美しかったからではないかと考えています。当時は殿様の目線が第一ですから、実際に城址から眺めてみると、そんな思いが強くなります。

正受庵がある場所は当時では江戸時代以降でも外れです。それだけ俗世から離れた場所に立地していたということですが、ここから飯山城址が良く見えますので見逃さないで下さい。寺町と城下町の中で最も高い場所に位置する光運寺が良いと思います。当時の町が「城を中心」に築かれたというところを実感できるのではないのでしょうか。

## まちなか歳時記

<p><b>四月</b> 四月中旬〜下旬</p> <p><b>飯山城址桜まつり</b></p>	<p><b>八月</b> 八月上旬</p> <p><b>灯籠まつり</b></p> <p>千曲川河畔 納涼花火大会 八月十四日</p>	<p><b>十月</b> 十月上旬</p> <p><b>寺巡り寺宝展</b></p> <p>寺町花街道</p>	<p><b>十一月</b> 十一月二日〜四日</p> <p><b>飯山えびす講</b></p>	<p><b>二月</b> 二月中旬</p> <p><b>いよいよ雪まつり</b></p>
---	---	---	---	--

## 伝統的工芸品

経済産業大臣指定「伝統的工芸品」に飯山市の「飯山仏壇」と「内山紙」が指定されています。信州の風土と長い歴史に育まれ、頑なに守り続けられてきた伝統技術を体感してみませんか。

### 飯山仏壇

今から300年前に始まったという仏壇作りは、仏教信仰の厚い土地柄と、漆塗りに最適な澄んだ空気と適度な湿度に恵まれて、飯山の代表的伝統産業として今日に至っています。木地には、ひめこ松、杉、檜などが使用され、古くなった仏壇は、分解して部品を洗って再塗装すれば新しく蘇らせることもできます。

### 内山紙

今から約400年前から始まったといわれる内山紙の製造は、原料に楮(こうぞ)のみを用います。多量の積雪を利用して原皮に凍皮(夜間雪上に放置して凍らせる)や雪ざらし(雪上に広げてまばらに雪をかけ、このまま1週間天日にさらす)を行います。このため、自然な白さと丈夫さのある紙が出来ると言われています。



# 日本のふるさと体感の旅 歩こいやま

## 市街地エリア

寺の町いよいよま のんびり歩くミニツアー



「飯山には日本の精神文化の頂点と伝統が息づいている」と作家 水上 勉が称えた正受庵 (長野県史跡)

「雪国の小京都」と呼ばれるほど寺の多い城下町。上杉謙信・景勝二代に渡り築城された飯山城(今は城址公園)を中心に、今でも市街地だけで20ものお寺があることから「寺の町」として知られています。

恵端禅師ゆかりの正受庵をはじめ、島崎藤村『破戒』のモデルとなった真宗寺など、数多くの古刹・名刹が並び、寺めぐり散策を楽しむことができます。野花が沿道を彩るのどかな道や、雪国の町並み「雁木」など、歩けばお寺以外の発見も数多くあります。

歴史ある街道筋を中心に成り立つ商店街も立ち寄ってみましょう。仏壇屋さんが建ち並び通りやレトロで個性的なお店があったり、裏路地を覗いてみると飲食店や生活空間が広がっていて、歴史ある街であることを感じさせます。和菓子などのスイーツ、地元の間人が通うB級グルメのお店を発見できるのも、まち歩きならではの楽しみです。

最寄り駅：JR 飯山線 飯山駅  
もしくは北飯山駅下車



観光についてのお問い合わせはこちら

一般社団法人 **飯山市観光協会** TEL.0269-62-3133 (8:30~17:30(土日祝休)) FAX.0269-81-2156  
〒389-2292長野県飯山市大字飯山1110-1飯山市役所内 <http://www.iiyama-ouendan.net/>

市街地エリアについてのお問い合わせはこちら

**飯山駅観光案内処** TEL.0269-62-2829 (9:00~17:00 年中無休(1月1~3日を除く)) FAX.0269-62-2829  
〒389-2253長野県飯山市大字飯山747-8

# 洗心の寺めぐり 歴史と信仰の城下町

## 寺の町いよいよま



至豊田飯山IC

# 寺の町 いいやま

**のんびり歩くミニツアー**

- 歩くミニツアールート 約4.5km 2時間～半日
- ぶらっと立ち寄りルート 約1.1km (城山下<sup>○</sup>発着) 約40分
- 約2.3km (飯山駅発着) 約1時間

※飯山駅または城山下駐車場(大型可)を拠点に寺町と仏壇通りを見学するコースです。

----- 寺めぐりルート

↑ 穂之丘山雲社  
斑尾高原まで 約9km  
斑尾高原入口  
コンビニ

**飯山手すき和紙工房**  
☎/0269-67-2794 営/9:00～17:00  
休/月曜日、12/29～3/31  
料/はがき1枚200円 色紙1枚500円

**飯山市伝統産業会館** ☎/0269-62-4019  
**飯山市美術館** ☎/0269-62-1501  
営/9:00～17:00  
休/月曜日(休日の場合は翌日休)  
料/大人300円、小・中学生200円(両館共通)

**飯山市ふるさと館**  
雪国飯山の歴史、自然、この地に根ざした文化を紹介する模型、パネルなどさまざまな資料を展示しています。  
☎/0269-67-2030 営/9:00～18:00  
休/月曜日(休日の場合は翌日休)  
料/大人200円 小・中学生100円

**観光案内処**  
まずは情報入手  
☎/0269-62-2829 営/9:00～17:00  
休/1月1日～3日

● **スタンプオリエンテーリング** **S**  
市街地にある22の寺社を訪ねて、切絵作家「柳沢京子」さんデザインのスタンプを専用台紙に押しまわります。10箇所以上のスタンプを集めた方には、スタンプオリエンテーリング達成記念として「極楽浄土ハッピーパスポート」を贈呈しています。

【台紙販売所】 飯山駅前観光案内処、伝統産業会館、展示試作館「奥信濃」  
【記念品引換所】 飯山駅前観光案内処、伝統産業会館  
【台紙】 200円

● **七福神めぐり**  
福德の神として信仰される七つの神様を訪ねてみましょう。布袋尊(斑尾高原ホテル)、寿老人(明昌寺)、大黒天(常福寺)、弁財天(本光寺)、毘沙門天(大聖寺)、福禄寿(英岩寺)、恵比寿大神(飯笠山神社)、約2時間の参拝コースを歩き、専用紙にそれぞれ七つの神社で御朱印をもらえば、七福神ご参拝記念品の完成です。

【色紙販売所】 飯山駅前観光案内処、伝統産業会館、展示試作館「奥信濃」  
【色紙】 600円～  
【ご朱印代】 1回100円×7カ所

**奈良沢例大祭(大天狗)**  
無形民俗文化財に指定される奈良沢神社の大天狗の舞は、その雄大さで見る物を圧倒します。

**愛宕町雁木通り**  
約300mにわたる雁木通りには11もの仏壇店が軒を連ねています。これだけの仏壇店が集まっているのは全国的にも大変珍しく「仏壇通り」とも呼ばれています。

**高橋まゆみ創作人形館**  
平成22年4月 愛宕町 雪と寺の町公園にオープン!  
撮影: 濱村裕



これだけは守って欲しい **寺巡りマナー**  
お寺はあくまで信仰の場です。お静かに拝観して頂きますよう、ご協力をお願いします。各お寺の歴史がそれぞれの入口に書き記してあります。

❓ **道先案内協力店の御案内**  
店先にこのマークを掲示してあるお店では皆様に道案内をさせていただきます。お気軽にどうぞ!

**恵端禪師(正受老人・1642～1721)と正受庵**

恵端禪師は江戸前期の臨済宗の名僧で字は道鏡、正受老人ともいわれる。松代藩主真田信之の子と伝えられ飯山城中に生まれた。19歳で江戸麻布の東北庵の至道無難の門に入って出家し、厳しい修行を重ね、やがて飯山に帰り、一庵を飯山上倉に結んで正受庵と名付けた。

名利を求めずひたすら修行に打ちこみ、晩年衣鉢を白隠に託し、白隠も正受到心服した。水戸光圀もたびたび迎えようとしたが、応じなかった。

80歳の長寿を全うしたが、師の無難とともに近世における臨済禅の再興者として、史上高く評価されている。



**文学碑**  
島崎藤村の小説「破戒」の文学碑が真宗寺に、島木赤彦の短歌碑が正受庵と展示試作館「奥信濃」に、秋原井泉水の句碑が称念寺に、土田耕平の短歌碑が妙専寺と飯山城址に建てられています。



**千曲川帆船**  
鉄道が開通するまでの江戸時代から明治時代にかけて、千曲川は越後と上田方面との交易路として、塩や海産物、穀類など、通船による物資の輸送が盛んに行われていました。



**個性ある雪隠(せっちん)**  
展示試作館「純金極楽トイレ」をはじめ「七福の雪隠堂」、「信玄の落とし処」などユニークなトイレが点在。



市ノ口

有尾

至戸狩野沢温泉

至十日町

